

東日本大震災に対する日南高校生の対応について

歴史に刻まれることになるであろう3・11事件（東日本大震災）の発生時における東北地方の人々の冷静で秩序ある行動が世界の賞賛を浴びていることはマスコミの報道でご存知のことと思う。中国では地震などの緊急事態が発生した時に日本人と同様の行動が取れるようになるには、熱心に教育しても少なくとも50年はかかるだろうという報告を行っている。それほど緊急時における日本人の態度は欧米諸国の基本理念としてある個人主義＝「我が身が大事」という考え方からすると賞賛されるべきことなのであろう。しかし、あるイギリス人が日本で列車に乗って旅行した時に、席の上の荷物棚に鞆を忘れて列車を降り、駅員に連絡して取りに行ってもらったら、そのまま荷物棚に遭ったことに驚き、日本人の公共の場での道徳観やマナーの良さを賞賛していた（ヨーロッパでは必ず盗まれるという）。同じイギリス人が都内の電車に乗っている時、老人や妊婦、幼児を連れた女性などの弱者に日本人がほとんど席を譲らないという態度にも衝撃を受けていた（欧米では必ず席を譲るという）。この「他人の物を盗まない精神」と「弱者に思いやりを見せない精神」のギャップはどこから発生しているのかという意見を述べていた。考えさせられる問題である。

さて東北大震災の被害を受けた住民（特に高校生）に対して、日南高校生はどのような行動を取るべきであろうか。本校の生徒会が中心になって実施した日南地区での募金活動に参加した生徒諸君も多いと思うし、募金した生徒も多いと思う。中には被災地に行ってボランティア活動を実施したいと考えている生徒諸君も少なからずいると思う。しかし、現実問題として、被災地でのボランティア活動はできないことは明白である。募金（活動）以外に、日南高校生として被災した東北地方の高校生を励ますためにやるべきことは何だろうか。被災した高校生は、家を流され学校を壊されて、満足に勉強する道具がない、場所（家）がない、時間がないという厳しい現状である。それらの被災した生徒から見ると、勉強する場所、時間、道具などすべてが満足できる状態に置かれている日南高校生が、それに甘えて遊んでばかりで勉強もせず、毎日を無為に過ごしているのを見ることほど腹の立つことはないと思う。日南高校の生徒が被災地の生徒を励ますために、まずやるべきことは、同じ普通科高校の生徒として毎日の勉強に全力を尽くして、全力で頑張っている姿を見せることである。それはスポーツの一流選手が試合の中で頑張っている姿を見せることで、被災者を励ますことと同じである。

日南高校生よ、勉強に全力を尽くし、被災地の高校生を励ませ！

M. K

週行事予定表（6/20～7/3）

月	日	曜	行事予定	備考
6	20	月		7:25着席 B
	21	火	統一LHR（生徒総会） 第1回清掃強化週間	7:25着席 B
	22	水	各種委員会	7:25着席 B
	23	木		7:25着席 B
	24	金	進路説明会（生徒・保護者）	7:25着席 B
	25	土	土曜講座②	8:20開始
	26	日	PTA地区対抗ミニバレー大会	
	27	月		8:20登校
	28	火	期末考査	8:20登校
	29	水	期末考査 アルバム用生徒個人写真撮影	8:20登校
	30	木	期末考査 アルバム用生徒個人写真撮影	8:20登校
7	1	金	期末考査 E祭体育の部結団式 家庭クラブボランティア	8:20登校
	2	土	土曜講座② 分野別教養講座	8:20開始
	3	日		

